

連載

86 在宅医療奮闘記

平成7年より
在宅を開始した

私の思い出

(医)東西会 千舟町クリニック院長

橋本 満義 (65歳・内科)

たまにしか帰らぬ家主に泣く 300坪の大豪邸の末路



いつものように、某施設へ定期訪問診療に行ったのですが、M.Hさん(82歳、女性)は、施設にいらっやいませんでした。その日の朝方、県外に住む後見人の長男さんが突然一人で帰松され、M.Hさんをご実家へ連れ帰り、数日間親子水入らずの生活をされているとのことでした。

M.Hさんは入所前、300坪の大豪邸で独居生活をされていましたが、神経症、うつ病、運動障害が悪化してしまい、やむをえず今の施設へ入所となったのです。

地図を頼りに、ご自宅への訪問となりまし

た。伺ってみると、M.Hさんには、施設での「帰宅願望」や「希死念慮」は影を潜め、昔ながらの親子の生活空間で、生き生きとした仕事が見られました。それはM.Hさんにとって、束の間の幸せなのでしょう。しかし、可能であれば、やはり自宅療養がベストである場合が多いようです。

帰りながら、周囲を見渡してみると、旧家が建ち並ぶ中、次々と地上げされ分譲されているようでした。それは、まるで地方都市の没落を見るようで、なんだか寂しい気持ちになりました。

消え行く地方都市の高級住宅街。そして、バブル時代に眠らぬ街として私たちを優しく包み、活気にあふれていた二番町、三番町の平日の夜も、今はもう以前のにぎわいはありません。

今ここで、先入観や慣例にとらわれず、思い切った知恵と行動をもって、「地方創生」に真摯に向き合わなければ、もはや、再生不可能な閾値に近づいてしまっている気がします。早急に、しっかりと、地域のオピニオンリーダーの登場が待ち望まれます。

「お医者さんが来てくれる」

24時間・365日態勢で対応(松山市全域)

私たちは質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。



医師数 21名
(常勤6名、非常勤15名)

内科・外科専門医 18名
(国立がんセンター勤務歴有3名)

精神科専門医 2名
麻酔科専門医 1名
(ペインクリニック科)

末期がん治療(緩和ケア)
相談室開設!

Hyper Blood Viscosity (高血液粘度群)を科学する 臨床生命科学(体質・病態学、栄養学)研究所開設
「地方創生健康長寿研究会」平成27年4月1日発足

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所

(医)東西会 千舟町クリニック

松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788

<http://www.touzaikai.jp/>